

マリー・アントワネット (2006)

MARIE ANTOINETTE

メディア 映画

ジャンル ドラマ ロマン스 歴史劇

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 123分

初公開日 2007/01/20

公開情報 東宝東和=東北新社

【キャッチコピー】

恋をした、朝まで遊んだ、
全世界に見つめられながら。

14歳で結婚、18歳で即位、豪華なヴェルサイユ宮殿に暮らす孤独な王妃の物語

【解説】

「ヴァージン・スーサイズ」「ロスト・イン・トランスレーション」のソフィア・ Coppola監督が、世界一有名な王妃マリー・アントワネットを主人公に描く歴史ドラマ。わずか14歳でフランス王家に嫁ぎ、以後24時間衆人環視の不自由な日常に晒されることになる一人の少女の苦悩と孤独に焦点を当て、ヒロインの心の軌跡をCoppola監督ならではのガーリー・テイスト全開のおしゃれでポップなタッチで綴ってゆく。フランス政府の協力の下、実際のヴェルサイユ宮殿での大規模な撮影が実現したことも話題に。主演は「スパイダーマン」シリーズのキルステン・ダンスト。

14歳のオーストリア皇女アントワヌは、母マリア・テレジアの意向によりフランス王太子のもとへと嫁ぐことに。フランスへ渡り、王太子妃マリー・アントワネットとして、ヴェルサイユ宮殿での結婚生活に胸をふくらませるマリーだったが、その実態は朝から晩まで大勢のとりまきに監視され、悪意に満ちた陰口に傷つく日々だった。さらに、15歳の夫ルイはまるで彼女に興味を示さず、世継ぎを求める声がプレッシャーとなってマリーにのしかかる。そんな孤独や不安を紛らわそうと、おしゃれや遊びに夢中になり贅沢三昧を繰り返すマリーだったが…。

【クレジット】

監督	ソフィア・Coppola	Sofia Coppola
製作	ソフィア・Coppola	Sofia Coppola
	ロス・カツ	Ross Katz
製作総指揮	フランシス・フォード・Coppola	Francis Ford Coppola
	ポール・ラッサム	Paul Rassam
	フレッド・ルース	Fred Roos
	マシュー・トルマック	Matthew Tolmach
共同製作	カラム・グリーン	Callum Greene
脚本	ソフィア・Coppola	Sofia Coppola
撮影	ランス・アコード	Lance Acord
プロダクション デザイン	K・K・バレット	K.K. Barrett
衣装デザイン	ミレーナ・カノネロ	Milena Canonero
編集	サラ・フラック	Sarah Flack

音楽プロデューサー	ブライアン・レイツェル	Brian Reitzell	
音楽監修	ブライアン・レイツェル	Brian Reitzell	
出演	キルステン・ダンスト	Kirsten Dunst	マリー・アントワネット
	ジェイソン・シュワルツマン	Jason Schwartzman	ルイ16世
	リップ・トーン	Rip Torn	ルイ15世
	ジュディ・デイヴィス	Judy Davis	ノアイユ伯爵夫人
	アーシア・アルジェント	Asia Argento	デュ・バリー夫人
	マリアンヌ・フェイスフル	Marianne Faithfull	マリア・テレジア女帝
	ローズ・バーン	Rose Byrne	ポリニャック公爵夫人
	モリー・シャノン	Molly Shannon	ヴィクトワール内親王
	シャーリー・ヘンダーソン	Shirley Henderson	ソフィー内親王
	ダニー・ヒューストン	Danny Huston	ヨーゼフ2世
	スティーヴ・クーガン	Steve Coogan	メルシー伯爵
	ジェイミー・ドーナツ	Jamie Dornan	フェルゼン伯爵
	クレマンティーヌ・ポワダッツ	Clémentine Poidatz	プロヴァンス伯爵夫人
	オーロール・クレマン	Aurore Clement	シャルル公爵夫人
	メアリー・ナイ	Mary Nighy	ランバル公妃
	アル・ウィーヴァー	Al Weaver	
	ギヨーム・ガリエンヌ	Guillaume Gallienne	
	セバスチャン・アルメスト	Sebastian Armesto	
	ジェームズ・ランス	James Lance	
	トム・ハーディ	Tom Hardy	